

会 議 録

1 会議名

第6回大潟区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

・報告事項（公開）

（1）「大潟区の魅力発見・発信事業」の進捗状況について

（2）地域活動支援事業に係る課題及び改善策について

（平成30年度上越市地域活動支援事業(大潟区)の制度に関するアンケート）

・その他

3 開催日時

平成30年10月25日（木）午後6時30分から午後8時00分まで

4 開催場所

大潟コミュニティプラザ 2階 大会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：金澤幸彦、君波豊、佐藤忠治、佐藤博之、新保正雄、内藤恒、中嶋浩、細井義久、柳澤周治、山田幸作、山本宏（16名中11名出席）

・事務局：鍵田大潟区総合事務所長、佐々木次長（総務・地域振興グループ長兼務）、平山市民生活・福祉グループ長、石川教育・文化グループ長、朝日総務・地域振興グループ班長、水澤総務・地域振興グループ主任

8 発言の内容（要旨）

【佐々木次長】

・会議の開会を宣言

・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

【佐藤忠治会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：金澤幸彦委員に依頼

【佐々木次長】

協議事項に入る。これより会長が議長を務める。

【佐藤忠治会長】

では、報告事項（1）「大潟区の魅力発見・発信事業」の進捗状況について、地域活動支援事業の追加募集分として採択され、まちづくり大潟が実施主体となった。その後の経緯等も含めて君波副会長に説明してもらう。

【君波豊副会長】

「大潟区の魅力発見・発信事業」について、地域活動支援事業として採択された。実施主体のまちづくり大潟と、製作会社のパーツプロダクションで協議を重ねていただき、構想ができあがった。それをもとに検討会を開催した。タイトルは「大潟の魅力発見」となっているが、仮称であり、皆さんの意見で変更も可能である。構成は、プロローグから大潟区の概要、体操アリーナ、春、小山作之助、夏、秋、冬、エピローグと続く15分間のDVDとなる。また、観光振興課から夜桜、謙信公祭、うみがたりなど上越市の代表的な観光資源やイベントを紹介してもらえないかとの要望があった。大潟区の魅力が薄まってしまうなどの意見が出たが、各季節の最後に上越市の紹介を挿入していくということで意見がまとまった。映像内容について様々な意見が出たが、最終的には市外の方に、大きなインパクトを与えられるようなDVDにしたいと確認して検討会を閉会した。

【佐藤忠治会長】

ただいまの説明について、意見、質問はあるか。

【山本宏委員】

市の観光振興課から、市の観光についてもDVDに入れてほしいとの依頼があったとのことであるが、その分について市から補助金が出るのか。

【佐々木次長】

地域活動支援事業自体が市の補助金である。市の補助金を使っての事業であるので、謙信公や桜について入れることに問題はない。区でこれだけのDVDを作るのは初めてであり、上越市の中の大潟区ということで、市全体の観光についても入れてほしいと観光振興課から依頼があった。しかし、大潟区の魅力を発信するという骨子があるので、バランスを考えて観光振興課と協議をしていきたい。

【佐藤忠治会長】

観光振興課から要望があったが、その分のお金が観光振興課から出るわけではない。

【新保正雄委員】

大潟の魅力を発信するのであるから、市全体の観光を入れる必要があるのか。

【佐藤忠治会長】

佐々木次長から話があったが、上越市の中の大潟区ということで観光振興課から依頼があつて入れたものである。

【内藤恒委員】

観光振興課から載せてくれと依頼があったのか。

【佐藤忠治会長】

そうである。

【内藤恒委員】

あまり市の観光部分を強調してしまうと、大潟区の魅力発信が薄くなるきらいがある。その兼ね合いが難しい。例えば、人魚館の手前の公園でイルミネーションを点灯している。規模は小さいがそういったものを載せてもいいと思う。

【佐藤忠治会長】

自治区で自分たちのPRビデオを作るのは初めてである。観光振興課としては市全体

の観光もPRしてもらいたいと考えたのだろう。

【君波豊副会長】

検討会では、大潟区が上越市の観光名所に近いところにあるという、良い部分を強調できるのではないかという意見も出た。

【鍵田所長】

区をPRするDVDを作成するのは初めてであるため、各区の先駆的な事業になっていくだろうということを考えると、上越市の代表的な謙信公や桜を入れていきながら、各区の魅力をアピールしてほしいというのが観光振興課の思いである。皆さんから、大潟区の魅力を中心にしてほしいという意見を頂いたので、それを観光振興課に伝えて調整を図っていききたい。

【内藤恒委員】

PRは多岐にわたってすればいいと思う。

【佐藤忠治会長】

昨日、中学生のまちづくりワークショップの活動発表があった。小山作之助の偉業と同時に大潟の魅力が伝わるような活動が大事であると感じた。

【君波豊副会長】

DVDの題名については「大潟の魅力発見・発信」のままで良いのならば、変更するのであれば早めに事務局へ意見を出してほしい。

【佐藤忠治会長】

次に、報告事項（2）「地域活動支援事業に係る課題及び改善策（平成30年度上越市地域活動支援事業（大潟区）の制度に関するアンケート）について」に入る。事務局から説明を願う。

【水澤主任】

（資料について説明）

【佐藤忠治会長】

質問、意見はあるか。

(一同無し)

【佐藤忠治会長】

以上で報告事項（２）を終了する。

次に、その他に移る。まず、１件報告する。先月２８日に、大潟区が幹事となって行われた「頸北地区地域協議会委員合同研修会」について、当日は当区から９名の委員が参加した。簡単に概要を報告させていただく。研修会では、テーマごとに３つの分科会とその報告を行った全体会、そして、「上越市の地域自治に接して考えてきたこと ～他都市、アメリカの都市とも比較して～」と題して、滋賀大学 宗野隆俊教授による講演が行われた。分科会については、当区の委員も分かれて出席したので各分科会の報告をしていただく。

【内藤恒委員】

第１分科会では「地域活動支援事業の検証と地域活性化」がテーマであった。採択された地域活動支援事業が区に必要不可欠なものかどうかということと、区によって事情が異なるが地域性を大事にすれば、事業の中味も異なるのでそれぞれの区に任せたやり方で良いのではないかという意見が大勢であった。

地域活動支援事業の検証のあり方については、各区で検証の仕方は異なるが、検証は必要であるという意見で一致した。各区の地域活動支援事業の内容が変化してきている。マニュアルはあるが、地域活性化に繋がるかは、それぞれの地区の地域協議会委員に委ねられているのでやむを得ないという意見も出された。

【君波豊副会長】

第２分科会では「地域課題の把握と自主的審議の活性化」がテーマであった。大潟区からは自主的審議事項の「大潟区の魅力発見・発信事業」について報告した。柿崎区については、６地区に出向いて懇談会を開催し、「地域交通のあり方について」、「保育園のあり方について」をこれから協議していくということであった。頸城区については５地区に出向いて意見交換をしている。観光振興による地域の活性化を図りたいということで、「大池、小池の観光資源としての利活用について」を自主的審議事項として取り上げ

たいということであった。また、公共交通についても検討していきたいということであった。吉川区では、7つの地域で出張地域協議会を開催し、「防災行政無線を含む情報伝達の確保」、「地域消防団への支援活動」を協議していきたいとの報告があった。中山間地を抱える地域では、高齢者を中心とする交通弱者の公共交通のあり方や地域消防、地域行事の担い手不足が課題となっていることが挙げられた。地域に出向いての意見交換会等では、行政への要望事項や苦情が多く、地域協議会が何かをしてくれるという期待と、何もしてくれないという不満に答えられないジレンマがあるという悩みも聞かれた。

【中嶋浩委員】

第3分科会では「市民や市民団体に開かれた議論の場づくり」がテーマであった。吉川区、柿崎区、頸城区では委員が出向いて行く出前方式をとっている報告があった。また、出前方式にはメリット、デメリットがあるという発表もあった。大潟区は出前方式を取っていないが、地域協議会だよりの編集委員が取材の中で地域活動支援事業の進捗状況が確認できていることを報告した。分科会の中で一番の関心事が、地域協議会や委員の認知度についてであった。認知度を高めていく努力が必要であるという意見があり、日頃から地域住民との距離感を無くし、課題を共有していくことが開かれた地域協議会になるというまとめであった。全体として時間が足りなかったが、それぞれの区の状況を確認でき、意義あるものであった。

【佐藤忠治会長】

研修についてのアンケート結果も良かったという意見が大半であった。

委員から連絡はあるか。

(一同無し)

総合事務所から連絡はあるか。

【水澤主任】

今年度の地域協議会委員の視察研修を11月22日木曜日に予定している。視察先として、リニューアルオープンした上越市立歴史博物館と高田の雁木について「雁木ねっとうわーく」の高野会長からお話を伺うことを検討している。また、町家の利用について

の話も伺えないか調整している。

【石川教育・文化グループ長】

えちご・くびき野 100km マラソン中止の経緯について説明

【佐々木次長】

原子力防災訓練（11/18）の実施について説明

【君波豊副会長】

質問、意見はないか。

【柳澤周治委員】

視察研修について、歴史博物館はいいが、なぜ雁木の話なのか。13区の中で町づくりに関わっている団体やサークルはないのか。合併後における合併前上越市の取組みは無視できない。しかし、周辺の地域がどのように頑張っているか、その際に地域協議会がどのような役割を果たしているかという事例があればいいと思う。

【君波豊副会長】

おっしゃるとおりである。今、板倉区が頑張っている。その話を聞けるのもいいのではないかと考える。

【佐藤忠治会長】

「雁木ねっとわーく」の高野会長は、高田区地域協議会の副会長である。高田の活性化の活動に力を入れておられる。

【鍵田所長】

板倉区では、板倉区に来てもらうための取り組みをされている。東本町の町家を改修して板倉区のサテライト施設を作っている。大潟区も家が連なっており、空き家も増えてきている。区でそのような取り組みをされているところもあり参考になればという思いもあって、今回、雁木と町家を見ていただければと思っている。

【君波豊副会長】

原子力防災訓練で屋内退避を行うが、例えば、町内の中で代表的な家にフィルムバッジ（放射線測定器）を試験的において、使い方などを訓練するようなことは考えていな

いのか。

【佐々木次長】

そのような訓練は想定していない。屋内退避の訓練のみである。

【君波豊副会長】

UPZの範囲内は30kmであるが、35kmになれば大潟区は全域が入る。浜線などは距離よりも、風向の関係で被害を受けやすい環境下であると思う。市も考えていると思うが、そういったことも踏まえて訓練を実施する必要があるのではないかと思う。

各家庭に、災害時の対応マニュアルが配られており、原子力関係についても載っているが今回のマニュアルは別に作成されたものか。

【佐々木次長】

今回のマニュアルは別に作成されたものである。UPZについて30km以内と国も括っていることから、その範囲内を重点的に訓練対象としている。範囲外であっても、関心があれば説明会等の開催はできるのでお声がけ頂きたい。風向の話も出たが、市でデータを取ったところ、年間3パーセント程度が柏崎から上越に向かって吹く風である。柏崎からは北東方面へ吹く風が多く、大潟区方向に吹く風は少ない。

【金澤幸彦委員】

今年、吉川区の旭地域生涯学習センターに、放射線量の測定器が設置されたようであるが、原子力発電所から30kmの場所であるから設置されたと解釈している。上越市全体で30kmの位置に設置しているのか。

【佐々木次長】

確認はしていないが、吉川区は区全体が30km圏内なので設置されたのではないか。

【柳澤周治委員】

屋内退避ということであるが、屋内に退避後に屋内で何かするのか。

【佐々木次長】

屋内に退避する訓練である。屋内退避の情報伝達等がきちんと伝わっているかどうかであり、退避後、室内に外気が入らないようにしたり、次の避難に向けた準備をしている

ただく。

【君波豊副会長】

せっかくの防災訓練の機会なので、フィルムバッジや線量計などを紹介することも必要であると考えます。

【佐々木次長】

貴重な意見をいただいた。担当課に繋げておく。

【金澤幸彦委員】

そういった指導は専門家がきちんとしているのではないかと。

【君波豊副会長】

市の防災担当は当然持っていると思う。

【佐々木次長】

今は危険なところへ行くことはないが、どのような機器で対応する予定かを確認させていただく。

【金澤幸彦委員】

素人から指摘されているようでは困る。

【佐々木次長】

放射線量の測定器は、必要な場所に設置されている。それを基に担当が確認している。

【佐藤忠治会長】

今後の日程について事務局から説明する。

【佐々木次長】

11月は視察研修があることから地域協議会は開催しない。第7回大潟区地域協議会は12月20日（木）午後6時30分から開催する。

【君波豊副会長】

・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

大潟区総合事務所 総務・地域振興グループ TEL：025-534-2111（内線 201、216）

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。